

5 パソコン単独での利用

ネットワークに繋がなくてもパソコンには多くの高い機能があります。
一般的に使われる頻度の高いものから挙げてみましょう。

ワープロソフトによる文書作成

- さまざまなレポートや一定の書式に則った提出文書の作成に使います。
- レポート作成では、科目によっては担当教員の教育方針や科目の特性上ワープロでの作成を許さない場合もありますが、現在では、実社会での作成文書がほとんどワープロによるものになったので、むしろきちんとワープロが使えることを目的として、ワープロによる文書の提出が求められる場合が増えてきています。

プレゼンテーションの資料作成

- 演習授業の中で自分やグループで調査、考察した結果を発表したり、あるいはゼミの発表会、卒論発表会などで自分の研究成果を発表する場合があります。こうした発表（presentation）で役に立つのがプレゼンテーションソフトです。代表的なものに PowerPoint があります。
- PowerPoint は、かつて OHP やスライド等で行っていた発表をパソコンの画面上や多くはプロジェクター等で大画面に映しながら行います。スライドが簡単に作成できるだけでなく、スライドの内容の提示に特別な演出効果を加えたり、簡単なアニメーション効果を加えたり画像や動画などを取り込んだスライドも作成できるため、これらを効果的に使いこなすことで、わかりやすく印象的な発表にすることができます。

表計算ソフトによるデータ処理

- 実験や調査活動で得られたデータやさまざまな資料から調べたデータを簡単な統計的な処理、例えばデータの並び替えをしたり平均を調べたり度数分布表を作ったりするのに、Microsoft Excel 等に代表される表計算ソフトは簡単で非常に有力な武器になります。
- また、処理したデータをグラフにする機能も充実しています。こうした機能を学習やレポート作成に利用することは、ごく当たり前のことになっています。

簡単な画像の加工

- デジタルカメラで撮影した画像やスキャナで書籍や雑誌、新聞から取り込んだ画像を適当な大きさに縮小したり切り抜いたりすることはパソコンに標準で搭載されている「ペイント」を使って行うこともできます。しかし、有償あるいは無償の専用のソフト（Paint.net など）を使うとより複雑な処理や効率的な処理ができます。レポートなどに画像を加えたりするのに必要な機能です。

専門分野にかかわる特定のソフトウェア

- 科目によっては、特定のソフトウェアを利用して課題をこなさなければならない場合もあります。
- 例えば、より高度な統計処理を行うための統計処理パッケージ（SPSS 等）の利用や数式処理ソフト（Mathematica 等）、コンピュータグラフィック（CG）を作成するためのソフト（Photoshop、Illustrator）、デジタルビデオカメラで撮影した動画の編集と作品制作のためのソフト、コンピュータミュージックを作成するためのソフト、プログラミング言語、ホームページ作成のためのソフト、建築・設計や回路設計のための CAD・CAM ソフトなどがあります。
- ここで挙げた以外にも専攻する分野においてさまざまな専用ソフトウェアが利用されていますが、それらは機能が優れている一方で、使いこなすには高度な知識が要求されるので、それぞれの学部で本格的に学修して使うことになります。ここでは最初に述べたように一般的な利用を中心に扱いますので、それぞれについてはあまり深入りはしないでおきましょう。

ソフトウェアやパソコンの利用方法

- こうしたさまざまなソフトウェアやパソコンの基本的な使い方はどこで学んだらよいのでしょうか。ほとんどの皆さんは高校で情報の科目を受講しているはずですので、最低限の利用方法は知っているでしょう。また、Webの利用やメールについてはすでにその利用が常識と化していますので、これについてもほとんどの人は問題なく使っているはずですよ。
- しかしそれだけでは不十分であると感じているとしたら、より本格的にワープロや表計算ソフトなどの利用方法はどこで学ぶのでしょうか？
- 大学でも「情報リテラシー」として基本的な使い方を学修する科目は、100番台科目として設定しています。より専門的なソフトウェアについては、それを利用する科目の授業で十分に習得することができるでしょう。

また、学内で催される無料講座や、有料になりますが継続学習センターの講座もあります。さらに街中には、さまざまなパソコン教室で講座を開講しています。

- さらに、書店で販売されている各種ソフトウェアの解説書で学ぶこともできます。解説本にはきわめて易しいものから本格的な機能を追求したものまでさまざまな書籍が毎日のように新しく出版されています。これからの社会では特にこの分野では、変化が非常に速く大きいものです。これに対応するには各自が自ら学ぶ力を身につけることが不可欠です。比較的時間のある学生時代に、マニュアルや解説書をしっかり読んで本から学ぶことができる力を養うことは、今後の皆さんがより良く生きていくために大切なことです。

Column

パソコンを使わないほうがよい選択もある

- パソコンは確かに大変便利であり、今やどこの学部で学ぶにしろ、大学生活では不可欠なものです。また、皆さんが社会に出ても、パソコンを使わない職業に就くことはむしろ珍しいのではないのでしょうか。たまたま仕事ではパソコンを使わない場合も、家庭でインターネットを使うことはもはや普通のことになっています。
- とはいえ、その便利さからあまりにパソコンやインターネットに依存して、それを中心にすべてを考えるのは正しい態度とは言えません。パソコンを使わないほうがよい選択もあるのです。
- 例えば、インターネットのWebでは、多くの新しい情報が存在し、その内容は時々刻々更新されていますが、そこにある情報はすべてではありません。むしろ本格的な情報や研究内容を理解するための手がかりのひとつ程度のものでしかない場合が多いのです。
- 最近の学生のレポートの中には、インターネットからの引用ばかりのものや論旨や考え方もインターネットに掲載された意見を無批判に取り入れたものが多く見受けられます。これは、読書能力、研究能力の育成のためにはよいことではありません。
- やはり本格的な情報や知識は、じっくりと一冊の本を読んだり論文を読んだりすることから初めて得られるものです。

